

足立区地域保健福祉計画 策定に係る地域懇談会 意見交換まとめ(速報)

第7回 地域保健福祉計画策定部会用資料

令和5年11月
福祉部福祉管理課

8月29日(火)19-21時 千住柳町住区センター

① 足立区で活動・暮らすなかで地域福祉について感じていること、問題・課題	
1	つながりが少なくなった。特に世代を越えたつながりがなくなってしまった。
2	挨拶をしても返事が返ってこない。
3	たくさん荷物を持った小学生に持ってあげようと声をかけたら、不審がられてしまいショックを受けた。
4	以前はおせっかいでよその人が子どもを叱っていたら、それを嗜める場面もあったが、今はそうしたこともできなくなってしまった。
5	マンションでは、隣に誰が住んでいるかも分からない状態になっている。オートロックの弊害もある。
6	コロナ・高温注意報等が出て外出しづらく、近所の人を見かけることが減ってしまい、声をかけたり、様子を把握しづらくなってしまった。
7	障害者手帳などを持っていないけれど、精神疾患を持っている人が以前より増えている印象がある。
8	以前はよその人もそれぞれ事情を知っていて、注意をできていたが、今はできなくなっている。
9	地域が介入しづらい状況になっているので、関係をつくりたい。
10	高齢者に運動してもらい、外に出るようにしたい。
11	保険料未納や滞納者で医療機関にかかれない人がいる。
12	地域の高齢者リストがなくなり、町会の見守り活動に支障がでている。
13	1人暮らしの高齢者で鍵を預かるような関係がなくなり、異変があっても鍵を開けられず、死亡してしまった事例などがある。
14	町会役員が地元の名士のような人に限られ閉鎖的になっており、町会活動が高齢化して引き継げない。
15	回覧板も煩わしく思われていて、町会を辞めたいという人や転入しても加入しない人が増えている。
16	若手の町会の担い手がない。
17	戸建だけでなくマンションでもゴミ屋敷は起きている。マンションは周辺から見つけづらい。
18	地域とのつながりがないため、孤独死も見つかりづらくなっている。
19	母の介護を通じて福祉スタッフにとっても助けられた。ケアマネさんの動きもととても良かった。
20	物を取られた・家族が浮気していると妄想し、銀行や郵便局でトラブルになり、地域包括支援センターでフォローすることもある。
21	問題が深刻化してから、窓口を訪れるので、思うようにいかずトラブルになることもあるようだ。
22	午前3時に連絡できる人がいる？というのが自殺防止に大事な問いかけと聞いた。午前3時と日曜日は気持ちが落ち込む時間帯らしい。
23	外国人が増えてきて、ゴミ捨てマナーが分からずルールを守れないことがある。
24	外国人シェアハウスのような場所がいつの間にか出来て、地域とつながりが持てない。
25	ゴミ捨てマナーが課題になっていたが、清掃事務所が丁寧に対応してくれたので、今は問題が解決した。
26	外国人の方も高齢化し、福祉サービスとつながることができていなさそうだ。
27	元気なひとり暮らしの高齢者が多い。
28	元気なうちに施設に入ることができない。地域包括に相談したがダメだった。
29	生活保護受給者でひとり暮らしの男性が孤立している。
30	ひきこもり状態でもネットを使える人には得意な分野を紹介できる。それをきっかけに対面が可能。
31	高層団地のゴミ出しはヘルパー頼みの人が多い。ただ、個別にやっているだけで区全体としての支援はない。
32	近所にゴミ屋敷があり、住んでいる人に挨拶はできるが、それ以上の声はかけられていない。
33	町会は担い手不足で活動が縮小。餅つき大会が今年から無くなったが、それでも千住地区は町会活動が盛んな方である。
34	いつもゴミを出している人が来なかったのので、家に行ってみたら倒れていた。
35	子どもの不登校が増加している。月に2回の支援をする場所があるが遠い。
36	不登校児童がいるが、行政と連携が取れていない。
37	子ども食堂にネガティブなイメージがある。コミュニティ食堂に改名するなど工夫が必要。

② 課題を地域で解決をしようとするために必要なこと・アイデア	
1	おはよう運動など誰でもできることから始め、地域の人に声をかけやすい状況を作りたい。
2	困った子ども・高齢者も行ける場所があるとよい。
3	悠々館や児童館が居場所になると思う。
4	駄菓子屋のような居場所があるとよい。
5	孤独になる前に手を打てるとよい。
6	ラジオ体操で毎日外出することを習慣化させ、元気でいられるようにしたい。
7	駅前の花植活動をしているが、そうした園芸活動も顔見知りの関係づくりに良いと思う。
8	コンビニの24時間営業により、近所づきあいが減ったり、夜中起きていても生活できてしまう。コンビニを早じまいすることはできないか。
9	コンビニは少人数用の惣菜が売っていて便利。イトインを活用できると良い。
10	75歳以上の家庭の鍵を指定の事業者が預かる緊急通報システムがある。
11	地域転入時に、鍵を預けている人がいるか確認し、大事に至る前に対策を打てるよう知っておきたい。
12	ごみ収集日が分からなくなってしまった地域の人に、町会長の家族が当日朝ゴミの日だよと電話連絡している。
13	町会の公式LINEやWEBを作って使用している。デジタル化は必要だ。
14	回覧板のような直接のやりとりも大切だと思う。
15	ケアプランをケアマネジャーと相談するまでに時間がかかる。
16	問題が深刻化する前に、早い段階で相談できると良い。
17	元気なうちは孤立を気にしない。元気なうちに出来る対策が必要。
18	地域のコミュニケーションを作り出す。
19	アンケートを取りに行っても不審者扱いを受けてしまうので、不審者に思われない工夫が必要。
20	町会に入っていない人が孤立しやすいので、町会とつながるとよい。
21	鍵を開けないと分からない。いざというとき鍵を開けられるルールが必要。
22	安否確認を足立区のlineでできればよい。ただ、誰がやるのかが課題。
23	目が見えない人については、区役所に言ったらゴミを高層階の玄関まで取りに来てくれる。
24	高齢者のゴミ出しの手伝いこそ近所の助け合い。
25	外国人に対応するため、ゴミ集積所案内版は英語版や中国語版、やさしい日本語で作る必要あり。
26	ゴミ屋敷対策は、周りがみんなで助け合って民生委員などと連携して、行政につなげて対策する必要がある。
27	SSWからの紹介があり、パントリー活動に区の課長やSSWが訪問にきた。NPO活動と行政のつながりを作っている。
28	3世代同居は有効である。
29	学校のタブレットを通じて子どもと情報を共有している（オンラインで相談している）。
30	不登校児童生徒とのオンラインは、先生によって対応が異なるため、共通のルール作りが必要。
31	地域内の情報伝達方法に工夫が必要。夜でなく昼に議論できる場が欲しい。
32	
33	
34	
35	
36	
37	

8月31日(木)19-21時 竹の塚障がい福祉館

① 足立区で活動・暮らすなかで地域福祉について感じていること、問題・課題	
1	困っている人がいても、どこに相談すればよいか、どこにつながるとよいか分からない。
2	分野の異なる団体同士が、情報交換・連携できる場がない。
3	地域のつながりをどう継承していくかが課題。
4	(団地) 高齢化が進み、集まれる場に出してくれる人が限られる。
5	地域の方をもっと巻き込み、自分事として捉えてもらうことが必要。
6	65歳を過ぎた障がい者が、介護保険への切り替えにより、利用できていたサービスを同じように利用できない問題が生じている。
7	障がいを持つ方は、自身が困っている状態でも認識できない場合もあり、相談につながらない。
8	障がい者の8050問題
9	家族による障がい者への経済的虐待・ネグレクトなど、障がい者のみへの対応では解決が難しい問題がある。
10	特にコロナ禍になり、若い男性の孤立(仕事をしていない、出来ない)が増えている。
11	経済的な問題を抱える中高年男性が増えている(フードパントリー利用の増加)。
12	フードパントリーに依存する年金高齢者が増えている。
13	お金・仕事がない若い外国人が増えている。
14	言葉の壁により、周囲となかなか接点を持ってない外国人がいる。
15	独居高齢者の支援者がいない。
16	別居家族・親戚でも交流が無く、病気等で連絡が来て、初めて状況が分かる。
17	若い人は仕事が忙しく地域活動に参加出来ない。
18	町会・自治会内部でも横のつながりがない。
19	地域からの助けを求めない人が多い。
20	防災の経験、助け合った経験が地域にない。
21	足立区は障がい者ニーズが多いにも関わらず従事者が少ない。
22	子どものための施設をもっと充実させて欲しい。
23	他人からは(外からは)貧困が見えづらい。
24	経済的な格差が教育の格差を生み出し、それがさらなる子どもの貧困につながる複合的な問題。
25	マンションで介護が必要な高齢者がいるが、その子どもは面倒を見に来ず、マンション住人が助けたことがある。
26	単身世帯が増えている。家庭を持たず、自分の楽しみを一人でやる社会になっている。
27	パートナーとの死別によって、パートナーが外との連絡を担っていた場合、とたんに孤立する。
28	必要な情報が届いていない(情報弱者)。
29	町会・自治会行事に参加しない会員は、体調が分からない。
30	団地の建て替え時に、高齢で精神疾患患者の引っ越しが問題。
31	高齢者が夜中に大声、ベランダで子どもが泣いている事例もよくある。
32	外国につながる子どもの保護者への支援が必要。保護者は学校からのお便りが読めず、学校システムの理解が難しい。
33	外国につながる子ども支援の中で、発達に問題を持つ子の十分な検査ができていない。
34	子どもが公園で好きに遊べない。ボールを使う遊びが禁止されている。
35	困りごとがあっても孤立していると、相談先が分からないので、相談すらできない。
36	老老介護+経済不安+ゴミ屋敷や、子どもが親を介護+経済不安など、複合的な課題も多い。
37	町会・自治会が予備知識を蓄積すると、当事者に不審がられる場合もある。

② 課題を地域で解決をしようとするために必要なこと・アイデア	
1	どんな相談もワンストップで受けてくれる場所が必要。
2	ふらっと立ち寄れることが大事（目的なくただ集まれるようなスペース）。
3	プロでなくても、趣旨を理解し、適切などころへつなぐことができる人が必要。
4	外国人も高齢者も、コミュニケーションをとって信頼関係を持つことが大切。
5	話をしてもらおう（相談に来てもらう）ためには、何より信頼関係が必要。
6	都度人が代わるのではなく、担当が見えると相談しやすくなる。
7	家族ケア（支援）の視点が必要だが、ネットワークがない。
8	必要な情報が必要とする人に届くよう、情報発信をとにかく徹底する。
9	介護が必要になって初めて「孤立」の問題が発生する。孤立問題を考えた介護予防が必要。
10	予防を重視する。保健所にもっと関わりを持たせる。医療知識のある人に介護予防に関わってもらう。
11	予防事業をもっと活発にしないと、介護制度が崩壊する。
12	中学生の「高齢者のゴミ捨て」ボランティア等
13	緊急時にドアを開けてくれる仕組みづくり
14	福祉分野の人の給料を上げる。
15	小・中学校に子どもの居場所を作る。
16	育児中のお母さんに地域活動に入ってもらおう制度（お母さんの孤立を防ぐ&子供を地域に馴染ませる等）
17	ボランティアといっても無償では出来ない。
18	独身の若者へのアプローチをしたいが、時間帯が合わない。
19	達成感を共有する。
20	子どもが役割を果たして活動する場を持つ（コロナで中断してしまった）。
21	貧困対策として今までにない仕組みで（子どもボランティアや中学生ボランティア）。
22	公営住宅は子どもが居住する権利を引き継げないので、同居できずに夫婦だけでは孤立化するばかりである。
23	友愛クラブ（老人会・南花畑地域）で孤立宅を訪問している。
24	団地の買い物支援していたがリスク（交通事故）で辞めたが、産業振興課を通じて移動販売を週一で来てくれている。
25	多文化共生社会の実施。在住外国人へ関心を持つ。
26	多文化共生社会のために「やさしい日本語」の普及。外国人だけではなく、高齢者にも有効。
27	地域での福祉活動の担い手である町会・自治会の担当者をもう少し信頼してほしい。
28	子ども向けの地域包括支援センターが必要。何でも相談できる窓口がほしい。
29	子どもや若者が相手なら、窓口だけでなく、スマホのアプリで相談が行えるようになってほしい。
30	行政の人が現場で一緒に行動してほしい。その積み重ねが信頼関係につながる。
31	行政から地域への情報のフィードバックが必要。
32	地元協力してほしい。地元に信頼してほしい。
33	行政の縦割りを排除
34	子どものマンパワーを高齢者のサポートにつなげる。ゴミ出しボランティアなどは、高齢者も不審がらないのでは。
35	
36	
37	

9月5日(火)19-21時 興本地域学習センター

① 足立区で活動・暮らすなかで地域福祉について感じていること、問題・課題	
1	町会の名簿が作れない（個人情報提供の拒否）。
2	個人情報が容易に得られないので、町会の会員集金簿が重要になっている。
3	（子ども達支援関連）親がどう育児をしているのか疑問に感じることもあるが、事情があるので介入しないようにしている。
4	独居の方にどこまで支援すべきか困っている。どこまで日常生活のことができるかが分かると支援しやすい。
5	学校でも家庭訪問がなくなり、小さなきっかけからしか異変に気づけない。
6	もう少し早く知っていれば手を打てたが、訪問したときにはゴミ屋敷や犬屋敷、猫屋敷になっていることもある。
7	昔は近所にお節介なおじさんやお婆さんがいて様子を分かったが、そうした関係も失われてしまった。
8	最近では子どもに挨拶するだけで不審者扱いされてしまうので、関係の作り方が難しい。
9	自分たち地域の人がどう介入したらいいのか悩ましい（児童相談所へ通報されることに対して親がビリビリ等）。
10	都営住宅では、ひとり親世帯が多いが交流がなく孤立している。
11	ギフテッドなど学校や社会になじまない子どもや精神疾患を抱える人は増えているが、孤立していることが課題。
12	生活保護家庭の中には、親や祖父母からずっと生活保護を受け続け、それが当然になってしまっている家庭もある。
13	外国の人とのコミュニケーションもとれないのが課題だ。
14	子どもの夏休み期間の昼食支援を町会有志で取り組んでいるが、約束しても取りに来ない人がいて、がっかりしてしまう。
15	回覧板で情報を回しても、地域の行事に参加するのは役員がほとんどになっている。
16	これまで介護認定の仕事をしていたので、その視点しかなかったが、高齢者だけでなく様々な人が困難を抱えていることを知った。
17	そもそも今回のようなワークショップの場に出てこれられない困難を抱えている人が多い。
18	障がい者への理解がもっと進むとよい。障がい者のための働く環境や待遇の改善が必要。
19	町会・自治会内でも情報が共有できていない。
20	同じ町会・自治会でも家族の様子が分からない。
21	町会・自治会加入率が低く、地域活動に対する関心が薄い。
22	町会・自治会費は集まらず、役員もなり手が不足している。
23	直接話をすることができず、家の中の子どもの様子が分からない。
24	親が共働きで、孤食の子どもが多い。
25	子どもに対する様々な虐待があるが、周りが気が付かない（気が付けない）。
26	高齢世帯やひとり親世帯に、経済的な貧困が見られる。障がいを抱えている場合も多い。
27	一人暮らしの認知症の人が多くと思われるが、情報が乏しく介入できない。
28	インフォーマルなコミュニケーションが必要だが、人材が不足している。
29	70歳で親の介護を在宅でするのは難しいため、老健施設に入所した。
30	家族が少ないのが問題。
31	支援が必要のない人でもフードパントリーを利用しているのではないか。
32	本当に必要な人が利用しているのかがよく分からないという認識が広がっているのではないか。
33	本当に必要な人に情報が行きわたっていない。本当に困っている人はインターネットを利用していない。
34	自分が障がい者であることを公表しづらい社会環境がある。
35	支援者の人材不足、高齢化が進んでいる。
36	2級主任者研修をもっと区が行うべき。介護職の人材確保・人材育成を。
37	

② 課題を地域で解決をしようとするために必要なこと・アイデア	
1	フードパントリーなど必要な人に正しく届けたい。悪用する人がいる。
2	フードパントリーに来た人には、連絡先を聞くようにしている。
3	行政や町会だけに頼るのではなく、地域の専門家や高校、大学と連携して支援できるとよい。
4	住区センターなど公共施設が、コロナ禍で閉館になっていたが、そうした場所を活用してほしい。
5	健康麻雀などさまざまなプログラムがあるが、常連の場になってしまい、新しい人が入りづらくなってしまふ。
6	カフェなど気軽に立ち寄れる場があると良いが、既存のそうした居場所運営が負担になってしまいがちだ。
7	買い物という共通の目的がハードルを下げる。
8	移動販売車と合わせて、カフェや相談コーナーを併設しマルシェのようにすると気軽に参加しやすくなる（谷在家での取組み）。
9	非常時に逃げられるかどうかは誰もが関心があることなので、町会が状況を把握するチャンスになっている。
10	防災訓練や買い物など、誰もが共通して関心・やることを入口にすると良さそうだ。
11	一人暮らしの高齢者が心配。災害時の事業持続計画（BCP）を策定する。消防団の維持。
12	昔のような町会・自治会が必要。隣の人を知ることから。
13	回覧板を回さない人がいる。
14	フードパントリーは、支援される側の人の情報をもっと知る必要があるのでは。
15	介護職の給料を上げることが必要。介護報酬も上げる必要がある。
16	主任者研修を増やす（無料・補助など）。
17	移動スーパーなど買物難民対策が必要（特に団地）。
18	ヘルパーも買い物に困っている。
19	農家の方々とつながる。
20	多くの人が地域福祉を自分の身近なこととして捉えられるようにしたい。
21	防災訓練を介して交流を行っている。
22	防災訓練に来られない人へは玄関先まで出向く・担当を自治会のメンバーが交代で行う。
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	

9月9日(土)10-12時 東和住区センター

① 足立区で活動・暮らすなかで地域福祉について感じていること、問題・課題	
1	家族が面倒に思って、病院などに連れていかない。
2	ヤングケアラー問題は知識として知っているが、世代が違いよく分からず、対処方法も分からない。
3	若い世代との連携が少ない。
4	当事者だけではなかなか相談までいかない。一歩進んで助ける側が見つかる体制が必要。
5	生活保護にならないギリギリの収入の方が公的なサービスを受けられない。
6	課題ごとに管轄する部署が分かれていて、連携できていない。
7	問題が様々列記されているが、それをつなげる行政・専門家がない。
8	子ども会がなくなりつつあり、子どもを支援する組織が無い。
9	様々地域に必要な活動があるが、人材・場所・資金不足で援助もない。
10	特にマンションでは、昔のような人と人とのつながりがなくなっている。
11	住民同士の助け合いの気持ちを活かせるきっかけがない。
12	情報技術の発展により様々な情報が得られるが、デジタルを使いこなせないシニア世代では情報難民がむしろ増えている。
13	生活困窮家庭は外から見えずらく、どのようにアウトリーチをしていけばよいか課題。
14	介護保険が難しすぎて分かりにくい。
15	(配食など) 必要な支援が本当に必要な人、届いてほしい人に届いていない。
16	イベントがあっても参加者が少なく、イベントがあること自体知られていない。
17	自分の考えをまとめられる人は相談に行けばよいが、そうでない人をどのように利用につなげられるかが課題。
18	地域の中で、何でも話せる場・関係性ができていない。
19	困ったときの相談先が分からず、受け止めてくれる人もいない。
20	地域課題は簡単に見えないものも多く、認知されにくい。
21	ボランティアなどは、参加のハードルが高いイメージがある。
22	支援を行うためには、相応の資格が必要との思い込みがある。
23	足立区には指定配食(補助金)制度がない(葛飾区・荒川区は有)ため、経済的理由で配食を利用できない方がいる。
24	情報を知りたいと思っても、個人情報保護と言われてしまい、開示してもらえない。
25	8050問題など一般には分からない言葉があり、誰にでも分かるように情報提供してほしい。
26	地域福祉と言われてもイメージがつきにくいので、一部の人でしか議論ができなくなってしまう。
27	障がい者用装具が壊れて歩けなくなっている人もいるが、これが当たり前だと思ってしまう人もいる。
28	情報を探す必要があるのかも分からないなど、制度の情報が必要な人に届いていない。
29	サービスを受けたい本人が相当調べないと、サービスに行き着かない。
30	配食サービスをしていると、孤独死の場面に遭遇することもある。
31	配食サービスで孤独死の場面に遭遇しても、他にも訪問する家庭があったりすると、どこまで対応するかは難しい。一日で複数遭遇することもある。
32	福祉に関わる担い手の雇用・待遇の改善をしてほしい。
33	障がい者の中には、全く移動ができない人もいる。移動できるように福祉タクシーが十分使えているか。
34	配食サービス者としてどこまで関わられるか。ケアマネジャーやヘルパーにどうつなげるか。
35	
36	
37	

② 課題を地域で解決をしようとするために必要なこと・アイデア	
1	デイサービスの体験イベントによるひきこもり高齢者へのきっかけづくり
2	表面に見えない問題に気付く方法。高齢者のほうがまだ気づきやすい。
3	高齢者のひきこもり防止イベント。体操教室など何処にも属さない人の参加を促す。
4	色々な課題に対して重層的に支援する体制が必要。地域社会が専門家につながっていくことも必要。
5	子どもの異変に気付くためのテストはもっと雰囲気づくりが必要。本当に問題があるか見抜けない。
6	SSWなど、支援する体制の情報を伝える仕組みづくりが必要。
7	イベントを通して町会・自治会と高齢者施設・障がい者施設をつなげる。
8	学校と町会・自治会をつなげるモデルケースを行政が主導する。子どもを引き付けるイベント。
9	ボランティアは日曜日に活動したいが施設が開いていない。
10	防災の仕組みづくり。
11	町会・自治会強制加入（会費は取らなくてもよいかも）
12	知識があっても相談を受けても、次にどこにつなげたらよいか、どうしたらよいか分からないこともある。
13	民生・児童委員を通じて関わってもらう。
14	学習支援に来る子には、必要な申請先を紹介している不登校の子に先生から伝えている場合もある。
15	外に出てくると楽しいことがあるなど、生きがいにつながるアプローチを。
16	気持ちが動く（外に出ていきたくなる）ような機会・場があることが大切。
17	機会・場を知ってもらうための広報を強化（TikTok、CATV、民放TV）。
18	商店会の場外アナウンス機能を活用できるとよい。
19	トラックを活用したコマーシャル（視覚・音声）
20	青パトの活用
21	元気な高齢者ができることを活かす。知識・技術を持っている人は多い。
22	高齢者にティックトッカー（講座・セミナーの講師だけでなく）になってもらい、動画で発信する。
23	区報で特集したり、号外を出すなどして、皆が関心を持つきっかけをつくってほしい。
24	今日のようなワークショップに出ることから始める。
25	会議で出されたアイデアや意見が、今後どう次につながっていくのかが気になる。
26	探さなくても、装具を作ったときや配食サービスを使い始めたときに、事業者から制度情報を伝える。
27	民生・児童委員や自治会をもっと活用できないか。もっと地域福祉に注力してほしい。
28	今でも町会・自治会役員など負担が大きい。
29	人との出会いは、今はネットが中心になってしまっている。
30	町会・自治会の役員だけでなく、地域住民が始め、皆が関心を持てるようにしたい。
31	地域住民が取り組むのに、義務になってしまうと困る。
32	一人で参加しても、あまり力にならない・居づらいこともある。次にも行きたいと思える体制が必要。
33	地域包括支援センターがハブになる。
34	子どもの問題は見えづらい。挨拶運動・子どもの服装を見る・SSWとつながっていると支援の輪が広がる。
35	
36	
37	

① 足立区で活動・暮らすなかで地域福祉について感じていること、問題・課題	
1	ひきこもりの方の話はよく聞かすが、実際に会ったことが無く、実態は分からず、アプローチ出来ない。
2	ひきこもりの親が亡くなってしまった後の支援がない。
3	ひきこもりを親が隠してしまうことも問題ではないか。
4	ひとり暮らしの人は、歳を取ると生活へのサポートが必要になるが、困っている人にアプローチ出来ない。
5	親の高齢化により従来世帯の中で世話をしていた障がい者の世話を外部化する必要がある。
6	親の高齢化により、障がいを持つ子どもが入居する施設に通えなくなるので、親への支援も必要になる。
7	通所している障がい者の世話をする親の高齢化で、子どもが通所できなくなるので、子のサポートを外部に依頼する必要がある。
8	外出できない重度の障がい者は、外とのつながりが無い状態になっている。
9	外出できない重度の障がい者は、ベッドの上でしか生活できない状態となっている。
10	家庭内で孤立する例。親の再婚により新たに子どもが生まれ、もう一人の子が放置されている。
11	滞納はがきによる振り込め詐欺など、金銭管理能力の低下した高齢者に漬け込む犯罪が横行している。
12	親族による年金等の搾取も発生している。
13	小学校の給食費補助が増えており、経済的困窮世帯が多いという印象を受ける。
14	町会・自治会は、役員の高齢化により後継者が不足している。
15	都営住宅やURは人の入れ替わりが多く、役員のなり手が不足している。
16	子どものころから不審者対策で挨拶しない風潮になり、制度がないと繋がりを持たず、顔見知りにも慣れない。
17	地域活動に区内大学生の若い力を借りたいが、一過性のものとなり継続した関係作りが難しい。
18	町会組織自体が古いので、そのままでは来ないだろう。
19	18歳までは行政等からの支援があるが、18歳以上は支援の対象外になることが多い(18歳の壁)。
20	ボランティアだから見返りを求めるのは違うが、感謝してもらえると自分の活動を認めてもらえて嬉しい。
21	バス便が減少するなど移動手段が減少しており、免許返納後、移動が不自由になり困っている。
22	行政は申請主義だが、障がい者が自分から困っている状況を伝えることは稀だ。
23	行政に障がい者の声や状況が伝わっていない。
24	相談窓口がバラバラで、相談者はいくつもの窓口を回らなければならない大変だ。
25	足立区独自の支援サービスがない。他区が独自支援として実施しているサービスを取り入れるのが遅い。
26	コロナ禍の外出抑制、高齢者増加、町会名簿がなくなった、防犯上の理由など、物理的に人と人のつながりが減ってしまった。
27	住民の層が変わったこと、地主の代替わり、近所のおせっかい役の減少など質的につながり方が変化した。
28	周りに関わりを持ちたくない人の増加、外国人が増えたことで挨拶すら出来ずつながりが希薄化している。
29	交通の便が悪いので、高齢者の買い物に不便だと思う。
30	身寄りのない高齢者と地域がどう関わるかが難しい。都営住宅でも高齢者が孤立している。
31	孤独を望んでいる方もいるという現状もあり、孤立の方との関係性づくりが難しい。
32	子ども食堂は対象を限定しないので、支援を要する子どもが来ているか分からない。支援を要しない家庭も来ってしまう。
33	思春期の子どもへの対応は難しく、年齢の近い大学生が接した方が子どもたちも安心して良いが、ボランティア確保が困難。
34	認知症や寝たきり状態になってしまうと、高齢者の通いの場に来れなくなり、社会から孤立してしまう。
35	高齢者の通いの場があると、安否確認ができ、来れていない方を訪問すると社会的背景が把握できる。
36	認知症の方の徘徊は、地域で支えられるのではないか。
37	問題解決には、重層的支援が不可欠なので他分野の支援者とつながることが必要。

② 課題を地域で解決をしようとするために必要なこと・アイデア

1	ひきこもりの方は外出のハードルは高くても、ITの活用で自宅から外につながり、お金を稼ぐことも出来る。
2	家から出なくても体験できると良い（バーチャル）が、既存の事業では対応できないので、資金を集めて事業を立ち上げる必要がある。
3	ひきこもりに対する色々な情報をもっと知れ渡ると良い。困っている人の情報を共有する方法が課題。
4	（8050問題）当事者の会があるとよいが、そもそも制度がない。
5	外出できない重度障がい者が外の世界を経験できるように、タブレットによるバーチャルの世界を体験させたい。
6	NPOに対する金銭的支援を出すとよいのでは。
7	NPOが地域を把握していると行政は楽になる（アメリカでの事例）。
8	高齢者詐欺対策は、警察や行政が犯罪としてきちんと対応するべき。
9	マンション建替え時は既存コミュニティを残したままの建て替えをすべき。
10	社会貢献したい大学生は多い。大学の単位取得先として、町会自治会等の地域で活動する組織が協力してはどうか。
11	ボランティアの育成に力を入れるべき。学生は体力も気力もありボランティアの雰囲気が変わる。
12	困っている人の声を集めて、知ってもらう必要がある。根拠となる数字を得るための実態調査が必要。
13	表彰する制度があるとやる気が出るのでは。賞状をあげる、やる気を持っていただく。
14	行政の人は現場を自分の目で見て対応してほしい。
15	障がい者が役所の窓口まで出向くのは難しく、オンラインや訪問など、障がい者の立場に沿った対応をしてほしい。
16	ルールにないことを切り捨てるのではなく、個別対応など実施し、担当者が変わっても申し送りで続けて欲しい。
17	親同士のつながりがあっても地域とのつながりは減った。町会の入り方もわからず、いきなり会費を徴収されても怖い。
18	町会の設立プロセスもわからないまま会費を集めることが先にあり、改善の余地がある。
19	若い人に町会に入ってもらいたいが、壁ができてしまい、なかなかアプローチしづらい。
20	町会に入るメリットは参加してみないと分からない。防災やつながりの面でメリットと感じる人も減った。
21	昼間に高齢者の孤立支援策として、大人食堂を始めた。
22	買い物支援、マルシェの開催→高齢者の安否確認・ボランティアの発掘・障がいを持つ子への社会的支援につながる。
23	マルシェでひとり親家庭に500円のチケット配布
24	空家を区が購入し、居場所支援の場所を作り、そこを活用する。
25	孤立支援としての居場所になる場所がなく、地域で活動しようという人がいない。
26	町会が活動出来ているかどうかは、夏祭りの開催が一つのバロメーターになっている。
27	住区推進課に問い合わせて、居場所事業として使える場所を確保できそう。社会福祉法人の地域貢献施設を使う。
28	支援は継続することが大事。でも、継続するには補助や助成などの財政支援が必要。
29	地域でゴミ捨てるの協力が出来るといいのではないかな。
30	地域包括支援センターで安心見守り支援が出来るともかもしれない。
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	